

ラブホテルの最上 階 母子セックス

4年前に夫と別離し

もうすぐ専門学校へ進学しようとしていた息子のダイトと二人暮らしになった母のミエコ。

「あなたも随分と大人になったみたい
ね・・・・・・・・」

そう言って、リビングを裸足で歩いている
ダイトの股間をチラと見る。

スリッパの上。太ももが台所のエプロン
から見えている。

「まあね・・・・・・・・部活とかで鍛えているから・・・・・・・・」

タイトの灰色のブリーフパンツはこんもりしている。

ちなみに先日、風呂上がりのすっぽんぽん姿もミエコは見てしまったのだが。

ミエコはそれとなく告げた。

「駅前に小さなカフェがあるじゃない」

ダイトはニコッと笑って頷く。

「数年前出来たんだっけ??」

窓の外は夕日。

夏の真ん中である。

あと数時間で涼しい夜。

「あの近くにラブホテルがあるの知ってる!!!」

.....

.....

カフェは数年前にオープンしたのだが、

ラブホテルはずっと昔からある

清閑で綺麗なたたずまいの大きなホテルだ。

これまで数多くのカップルたちが愛を
確かめ合ってきたとっても神秘的な場
所。

改装もあって、

新しい雰囲気となっている。

ロビーにわずかに色のある白い大きな壺。

色とりどりの花がさしてある。

「ああ・・・そうだね」

ダイトは曖昧な返事。

まだそんなことは早い年齢。

しかし母はそこを押す。

「一緒に遊びがてら・・・行ってみない！！？」

ダイトは少し顔を上げた・・・。

「なんだか楽しそうじゃん！！」

・・・・・・・・母は卑猥な微笑みを浮かべる。

「・・・・・・・・楽しみだわ」

先日夏のお祭りで盛り上がったこの街
は

今はやけに不気味な静けさに包まれている……。

…… 玄関横の車庫に白いワゴン。

母のミエコは化粧品売り場で働きながら、帰りに同僚の男性たちといつもそのラブホテルへ行ってセックスするのが

日課となっている。

「息子も参加させるとどうかしら……」

そんな風に計画を練っていた主婦セックスグループ。

ラブホテルの広間で白いマットを敷いて、汗だくになり裸で絡み合いながら。

「次はどんな男の子のオチンポが食べられるのかしら・・・」

汗だくで絡み合っている。

濃密な愛の空間。

「ミエコさんの息子さんも随分と大きくなってるみたいじゃない・・・」

主婦セックス仲間のユウハは、別の旦那、つまりはこの乱交グループの一員のそそり立ったペニスを舐めながらミエコに言う。

「そうなのよ。部活に遊びに忙しいみたいで・・・・・・・・おちんぽもめっきり大きくなっちゃって・・・・・・・・」

そして少し前方を見つめた。

街中。昼下がりの電柱に緩い風が吹いている。

「まあ・・・・・・・・でも息子たちにはまだ
早いかも・・・・・・・・」

ミエコは想像していた。

数日前見た、息子のブリーフパンツ姿。

「舐め頃じゃない？そろそろ奥さんも
誘ってみたら？」

その日朝まで続いた乱交はいつも通り、
とても濃密な快楽に終わった。

朝焼けの空を見ながらゆっくりと次の
日の仕事に主婦業に、そして日常の楽し
みに帰っていったメンバー主婦たち。

新しい忙しい毎日が今日も始まる・・・。

• • • • • • • • • • ◦

「行ってみたいよ！！楽しみだよ！！
ママとラブホテル！！！」

ダイトが大賛成をしたことで行くこと
になった。

昔からあるそのホテルは少し小高い丘の上であり、横に洋菓子などを売っている小さな店がある。

白いワゴンはゆっくりと街を走っていく。

ハンドルを握る母はピンク色のキャミソール。ほんの少しだけ汗が滲んだ首筋。ほんの少しだけ血管が滲み、太ももが見えている。赤らめた頬。ワクワクした表情。

何度も通っている道でもいつもとは少し違う景色に見える。

二人はいつもにはない高揚感に包まれている……。

丘を上がり、

ホテルに到着。

綺麗な月がやけに不気味に映る。

エッチな気持ちの時は

全てがある種不気味にも映ったり・・・。

二人はそのままホテルの中へ入っていった。静かで穏やかな夜。

フロントの女性がふと何かを思い出して時計を確認。

時刻は深夜一時を回っていた・・・・・・・・。

・・・・・・・・

二人はベッドの上で

すっぽんぽんになり性器を丸出しにして
て・・・・・・・・

素っ裸で汗だくになっていた。

息子、ダイトのペニスを夢中で舐めすす
るミエコ。

「近所の奥さんの言う通りよ・・・・・・・・ず
じゅぶぶぶっ・・・・・・・・息子のったら、
とっても大きいんだから・・・・・・・・うちの
息子に限らずね・・・・・・・・みんなみんな」

成長した息子の逞しさを目の前に無我
夢中になる母ミエコ。

「友達の奥さんの息子さんのと同じく
らい大きいわよ・・・話で聞いてたら
大きいみたいだから・・・」

(体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました)